

高知大学 大学院総合人間自然科学研究科

修士課程 農林海洋科学専攻

学生確保の見通し等を記載した書類

目 次

1	学生確保の見通し及び申請者としての取組状況	
	(1) 学生確保の見通し . . . . .	1
	(2) 学生確保に向けた具体的な取り組み状況 . . . . .	4
	(3) 学生納付金の設定の考え方 . . . . .	4
2	人材需要の動向等社会の要請	
	(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 . . . . .	5
	(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえた ものであることの客観的な根拠 . . . . .	5

高知大学大学院総合人間自然科学研究科  
修士課程農林海洋科学専攻  
学生の確保の見通し等を記載した書類

1. 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生確保の見通し

1) 定員充足の見込み

農林海洋科学専攻の入学定員の設定にあたっては、先ず、社会の需要（出口ニーズ）を見据えながら、対象学生の意向調査の結果や従前の当該分野の入学状況等から本専攻を構成する3コース毎の入学者数（入口ニーズ）を踏まえ、入学定員を55名に設定した。

「2）定員充足の根拠となる客観的なデータの概要」で示す通り、学生への意向調査の結果等から導かれる3コース毎の入学者数（入口ニーズ）は、農林資源環境科学コース **22名**、農芸化学コース **24名**、海洋資源科学コース **25名**、の本専攻合計 **71名**となっていることから、入学者選抜の質（1.3倍）を担保したうえで入学定員55名を満たすことは可能である。

入学定員設定の根拠は、前身の農学専攻の入学実績と新規分野における入学見込みである。農林海洋科学専攻の前身である農学専攻の過去5年間の入学実績は下記のとおりであり、平均44.8名となっている。

	H26	H27	H28	H29	H30	平均
入学者数	51名	49名	42名	39名	43名	44.8名
定員充足率	86.4%	83.1%	71.2%	66.1%	72.9%	75.9%

この農学専攻には、新専攻の農林資源環境科学コース・農芸化学コースとともに、海洋資源科学コースのうち海洋生物生産学・水産学等の領域が含まれており、農林海洋科学専攻に改組するにあたり新規分野として追加される研究領域は、海洋資源科学コースの海底資源環境学・海洋生命科学の領域となっている。

新専攻に対する学部3年生を対象とした進学意向調査においては、下記2)アのように海洋資源科学コースに対して「22名」の者が進学意向を有している（「受験したいと思う」と回答し、「合格した場合、入学したいと思う」と回答した者の数）。この22名が専攻する研究領域の分布は不明であるため、海洋資源科学コースと直接関係する農林海洋科学部海洋資源科学科における学生の分布から分析する。海洋資源科学科では、海洋生物生産学・海底資源環境学・海洋生命科学の3つのコースとなっており、海洋生物生産学コース30名・海底資源環境学15名・海洋生命科学20名の規模で学生募集を実施している。この比率で進学意向を有する「22名」を案分した場合、海底資源環境学5.1名・海洋生命科学6.8名となり、農林海洋科学専攻の新規分野への入学見込みは11名と考えられる。

従来の入学者数44名に、新規分野での入学見込み11名を合算し、入学定員を55名と設定した。

## 2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

### ア 基礎学部（農林海洋科学部3年次生）における入学意向調査結果

農林海洋科学専攻を設置に関する入学ニーズ把握のため、基礎学部となる農林海洋科学部3年生（在籍者数：農林資源環境科学科87名、農芸化学科：43名、海洋資源科学科：65名）を対象に、進学に関するアンケート調査を行った。調査は、【資料1：進学に関するアンケートについて】のアンケート項目により実施し、実施に当たっては、【資料2：農林海洋科学専攻（仮称）構想 人材育成イメージ（アンケート調査時点）】の資料を学生に示すとともに、学生が所属する学科の教員から、新専攻の概要及び各コースで育成する人材像・教育課程等の詳細な説明を行った。

そのアンケート調査結果は、以下のとおりである。

回答者数・回答率

学科名	回答者数	在籍者数	回答率
農林資源環境科学科	72	87	82.8%
農芸化学科	42	43	97.7%
海洋資源科学科	53	65	81.5%
未回答	3	—	—
計	170	195	87.2%

「Q1 大学院修士課程に進学したいと思いますか。」の回答

①進学したいと思う	46
②進学をすることも視野に入れている	39
③進学しないと思う	85

「Q1」において、「①進学したいと思う」、「②進学をすることも視野に入れている」と回答した者（85名）の「Q5 大学院修士課程農林海洋科学専攻が設置された場合、あなたは受験したいと思いますか。」の回答

①受験したいと思う	70
②受験しないと思う	15

「Q5」において、「①受験したいと思う」と回答した者（70名）の「Q7 大学院修士課程農林海洋科学専攻を受験し、合格した場合、あなたは入学したいと思いますか。」の回答

①入学したいと思う	63
②入学しないと思う	7

以上の基礎学部の学生に対するアンケート調査結果からは、農林海洋科学専攻に「入学したい」と考えている学生が63名いることが分かった。この63名の進学を希望するコースの内訳は以下のとおりである。

農林資源環境科学コース	<u>19名</u>
農芸化学コース	<u>22名</u>
海洋資源科学コース	<u>22名</u>

## イ 基礎学部（農林海洋科学部）以外からの進学者の見込み

上記の「ア」で示したアンケート調査結果は、基礎学部である農林海洋科学部の3年次生を対象としたものであるが、基礎学部以外から進学してくる者の見込みについては、設置予定の農林海洋科学専攻の前身である農学専攻の過去の5年間の実績を活用し算出する。

### ① 他大学等からの進学実績

他大学等から農学専攻への進学者の過去5年間の実績は以下のとおりであり、専攻全体で5名程度の進学が見込まれる。この専攻全体で見込まれる5名の新専攻各コースへの振り分けを指導教員の専攻分野を基に行ったところ、各コース1～2名程度となる。

#### ○他大学等からの進学実績（5ヵ年）

	H26	H27	H28	H29	H30	平均	見込み
農学専攻全体	6	5	6	4	6	5.4	<u>5名</u>
<b>【指導教員の専門分野を 基にした振り分け結果】</b>							
農林資源環境科学コース	2	1	5	0	3	2.2	<u>2名</u>
農芸化学コース	2	1	1	1	2	1.4	<u>1名</u>
海洋資源科学コース	2	3	0	3	1	1.8	<u>2名</u>

### ② AAP コース入学実績

「アジア・アフリカ・環太平洋留学生特別コース」（以下、「AAP コース」という。）については、農林海洋科学専攻の前々身である大学院農学研究科において平成12年に設置認可されて以降、アジア・アフリカ・環太平洋地域の外国人留学生を対象として受け入れてきたコースであり、今回の新専攻の設置においても、同コースの考え方の下、留学生（10月入学）を受け入れる計画となっている。

AAP コースの進学者の過去5年間の実績は以下のとおりであり、専攻全体で3名程度の進学が見込まれる。この専攻全体で見込まれる3名の新専攻各コースへの振り分けについては、「①他大学等からの進学実績」と同様に、指導教員の主たる専攻分野を基に行ったところ、各コース1名程度となる。

○AAP コース入学実績（5 年）

	H26	H27	H28	H29	H30	平均	見込み
農学専攻全体	6	1	1	4	3	3.0	<u>3名</u>
【指導教員の専門分野を 基にした振り分け結果】							
農林資源環境科学コース	3	0	0	1	0	0.8	<u>1名</u>
農芸化学コース	2	0	0	2	2	1.2	<u>1名</u>
海洋資源科学コース	1	1	1	1	1	1.0	<u>1名</u>

ウ 基礎学部を対象とした入学意向調査及び基礎学部以外からの入学実績を基にした  
学生確保に関するまとめ

上記の「ア 基礎学部（農林海洋科学部3年次生）における入学意向調査結果」及び「イ 基礎学部（農林海洋科学部）以外からの進学者の見込み」から算出される入学定員の見込みは以下のとおりである。

	基礎学部対象 アンケート	他大学等から の入学実績	AAP コース 入学実績	計
農林資源環境科学コース	19	2	1	<u>22名</u>
農芸化学コース	22	1	1	<u>24名</u>
海洋資源科学コース	22	2	1	<u>25名</u>
農林海洋科学専攻全体	63	5	3	<u>71名</u>

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

本専攻の目的や育成する人材像、教育課程の特色などをPRするためのパンフレットを作成し大学内外に積極的に配布すると共に、進学説明会や相談会などを開催するなどの広報活動を行う。特に、農林海洋科学部学生に対しては、作成したパンフレットを配布すると共に、本専攻への進学の意義やメリットについて周知する。

さらに、他大学の学生については、積極的なPR活動や事前相談活動などを行って広く本専攻の存在と意義を広報して、優秀な人材の入学を奨励する。

(3) 学生納付金の設定の考え方

本学の納付金は、授業料年額 535, 800 円で「国立大学等の授業料その他費用に関する省令」第 2 条に定める標準額と同額、かつ近隣の国立大学法人と同額である。

## 2. 人材需要の動向等社会の要請

### (1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本専攻では、「安全・安心な食料をはじめとする人の暮らしを支えるさまざまな資源の安定的確保」、「資源の開発・獲得および高次有効利用にかかわる技術の開発」、「生産環境および地域・地球環境の保全・修復による人間社会の持続的発展」を農林海洋科学のはたすべき使命と認識し、多様化した社会の要請や先鋭化する研究の進歩に柔軟に対応できる教育研究システムを備えることにより、個々の学生の資質や目指す進路に応じたきめこまやかな教育を行って、高度な知識と技術、科学的思考力と課題解決能力、社会倫理および深い教養を併せ持ち、地域社会や国際社会の健全な発展に貢献できる人材を養成する。そのため、専攻内に農林資源環境科学・農芸化学・海洋資源科学の3つのコースを配置し、農学・海洋科学に関する修士レベルでの教育を実施する。

### (2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

#### 1) 人材需要の動向把握に向けた調査結果

社会的・地域的な人材需要の動向等を調査するため、平成30年11月に企業・団体等を対象としたアンケート調査を実施した。調査対象は、基礎学部である農林海洋科学部(前身の農学部も含む。)や大学院農学専攻宛に求人実績のある約700社である。なお、過去の各種アンケート調査時の回答率等を基に、「見込み回答率」を15~20%と設定した。

調査は、養成する人材像・教育課程等を示す資料として【資料2：農林海洋科学専攻(仮称)構想 人材育成イメージ(アンケート調査時点)】(再掲)を用い、【資料3：農林海洋科学専攻(仮称)設置に関するアンケートについて】のアンケート項目Q1~Q9により実施した。

実施結果は下記のとおりであり、当初設定した「見込み回答率：15~20%」と比較し、大幅に上回る回答があることから、本専攻の設置計画に関する高い関心がうかがえる。

対象企業数	回答企業数	回答率
715社	220社	30.8%

【資料3】のアンケート項目のうち、「Q6 農林海洋科学専攻が設置された場合、当専攻の修了生を採用する可能性を教えてください。」の回答は以下のとおりである。

①採用したいと思う	142社
②採用しないと思う	63社
③無回答	15社

「Q6」で「①採用したいと思う」と回答した 142 社に対して行った「Q7 農林海洋科学専攻のどのコースの修了生を採用したいと考えますか。」及び「Q8 農林海洋科学専攻の修了生を採用する場合、何人程度の採用が見込まれますか。」の回答

	「コースの修了生を採用したい」と回答した企業・団体数（※1）	見込まれる採用人数の合計（※2）
農林資源環境科学コース	99 社	99.5 名
農芸化学コース	83 社	61 名
海洋資源科学コース	73 社	54.2 名
	計	214.7 名

※1 採用意向については、コースを「複数回答可」として調査している。

※2 「採用人数」については、「〇名/〇年」などの回答をした企業・団体があったことから、「見込まれる採用人数の合計」を算出する際に小数点が発生している。

「1名/2年」との回答：0.5名として計上

上記のように、アンケート調査からは、農林海洋科学専攻が養成する人材に対しては 142 社が「採用したい」との意向を有していることが分かった。

コース別では、「農林資源環境科学コース」には 99 社 99 名程度、「農芸化学コース」には 83 社 61 名程度、「海洋資源科学コース」には 73 社 54 名程度の採用意向・採用規模がある。

この結果、専攻全体の入学定員 55 人に対して十分な採用意向が示されているとともに、「(1) 学生確保の見通し」で示されているコース別の入学見込み人数（農林資源環境科学コース 22 名、農芸化学コース 24 名、海洋資源科学コース 25 名）に対しても、十分な採用意向・採用規模が示されている。

以上のことから、本専攻の設置計画は、社会的・地域的な人材需要と合致していると考えられる。

## 2) 社会人の学び直しに関する調査結果【参考調査】

社会的・地域的な人材需要に関する別の観点として、「社会人の学び直し」に関する調査を実施した。調査対象は、「1) 人材需要の動向把握に向けた調査」の対象企業（求人実績のある企業 715 社）であり、【資料 3：農林海洋科学専攻（仮称）設置に関するアンケートについて】（再掲）のアンケート項目 Q10・Q11 により実施した。

【資料 3】のアンケート項目のうち、「Q10 貴社・貴組織の社員等を農林海洋科学専攻へ社会人入学させたいと考えますか。」の回答は以下のとおりである。

①入学させたいと思う	23 社
②入学させたいと思わない	166 社
③無回答	31 社

上記のように、社数は多くないものの、一定の企業・団体から、本専攻の設置計画に関し、自社の社員を「社会人院生として入学させたい」との意向が示されている。

「Q10」で「①入学させたいと思う」と回答した23社に対して行った「Q11 入学させたい場合、どの頻度で入学させたいと考えますか。」の回答は以下のとおりである。

	「入学させたい」と回答したコースの内訳（※1）	入学させたい人数（※2）
農林資源環境科学コース	7社	6.6人
農芸化学コース	3社	1.8人
海洋資源科学コース	6社	4.7人

※1 「入学させたい」コースは、「複数回答可」として調査している。また「入学させたい」コースを「検討中」と回答した企業・団体があることから、Q10で「①入学させたいと思う」と回答した総企業数と一致しない。

※2 「入学させたい人数」については、回答形式を「〇人／〇年」としているため、1学年の入学人数を算出する際に小数点が発生している。

「1名／2年」との回答：0.5名として計上

以上のように、参考調査ではあるが、企業側に対して行った「社会人の学び直し」に関する調査結果によると、新専攻に「入学させたいと思う」と考える企業・団体数が一定数存在していることから、本専攻の設置計画は、社会的・地域的な人材需要と合致していると考えられる。





**Q4. 現在高知大学では、大学院総合人間自然科学研究科に農林水産資源のみならず海洋資源をも含んだ地球資源の開発と産業的利活用を扱う高度専門職業人育成を目指した大学院修士課程農林海洋科学専攻の設置を計画しています。(別紙参照)**

この農林海洋科学専攻について、次の項目についてそれぞれの程度魅力を感じましたか。

・「人材像」について

- |                |               |
|----------------|---------------|
| 1. とても魅力的である   | 2. ある程度魅力的である |
| 3. どちらともいえない   | 4. あまり魅力的ではない |
| 5. まったく魅力的ではない |               |

・「身につく能力」について

- |                |               |
|----------------|---------------|
| 1. とても魅力的である   | 2. ある程度魅力的である |
| 3. どちらともいえない   | 4. あまり魅力的ではない |
| 5. まったく魅力的ではない |               |

・「カリキュラム」について

- |                |               |
|----------------|---------------|
| 1. とても魅力的である   | 2. ある程度魅力的である |
| 3. どちらともいえない   | 4. あまり魅力的ではない |
| 5. まったく魅力的ではない |               |

**Q5. 大学院修士課程農林海洋科学専攻が設置された場合、あなたは受験したいと思いますか。**

- |               |             |
|---------------|-------------|
| 1. 受験したいと思います | 2. 受験しないと思う |
|---------------|-------------|

**Q6. Q5で1.を回答された方にお聞きます。**

受験したいと思うコースは大学院修士課程農林海洋科学専攻のどのコースですか。

- |                |            |
|----------------|------------|
| 1. 農林資源環境科学コース | 2. 農芸化学コース |
| 3. 海洋資源科学コース   |            |

**Q7. Q5で1.を回答された方にお聞きます。**

大学院修士課程農林海洋科学専攻を受験し、合格した場合、あなたは入学したいと思いますか。

- |               |             |
|---------------|-------------|
| 1. 入学したいと思います | 2. 入学しないと思う |
|---------------|-------------|

**Q8. Q7で1.を回答された方にお聞きします。**

**高知大学の大学院修士課程農林海洋科学専攻への入学を考える理由は何でしょうか。**

1. 興味のある分野の研究ができるから
2. 高知大学の大学院に進学することで、学部で身に付けた知識・能力をより高度に深めることができるから
3. 地域貢献したいから
4. 学校教員の専修免許状など大学院で取得できる資格に関心があるから
5. その他( )
6. 特に理由はない

**Q9. Q7で2.を回答された方にお聞きします。**

**そのように考える理由は何でしょうか。**

1. 他大学への進学を第一希望としているから
2. 就職を第一希望としているから
3. その他( )
4. 特に理由はない

**Q10. 農林海洋科学専攻に関するご意見等ございましたら、ご自由にお書き下さい。**

**質問はこれで終了です。ご協力いただきありがとうございました。**

# 農林海洋科学専攻（仮称）構想 人材育成イメージ



## 1. 改組前・改組後の専攻の育成する人材像

### 現農学専攻の目的

森林・耕地・海などの多様な豊かなフィールドを背景にして、第一次産業の高度化、林業・林産業の活性化、水産資源の育成・管理、第一次産業の基盤整備、防災、環境修復・保全、機能性食品等の分野の発展等に寄与し、高度な専門教育を実践し、各分野で高度の専門技術を習得させ、専門技術者若しくは研究者として自立できる人材、国際的に活躍できる専門職業人及び先端研究を通して各界の中心を担う人材を育成することを目的とする。（農学専攻規則第2条、3条）

**大学の使命**

- 平成28年度学部改組・・・農林海洋科学部で新しい資源科学を学んだ学生たちにさらに深い専門知識を獲得させ、高度産業技術者、研究者並びに教育者を育成する場が必要。
- 農学分野のミッション (H26)

**国や県からの要請**

太陽エネルギーに由来する従来の農学的資源の範囲を大きく拡大し  
**農林水産資源のみならず海洋資源をも含んだ地球資源の開発と産業的利活用を扱う高度専門職業人育成を担う専攻へ**

- 「食料・農業・農村基本計画」(H27.3) ・「成長戦略」(H26.8)
- 「農林水産業・地域の活力創造プラン」(H28.11)
- 「最先端バイオテクノロジーで切り拓く新たな農林水産業の創造に向けて」(H29.2)
- 「海洋基本計画」(H20.3) ・「日本再生戦略」(H24.7)
- 「第3期高知県産業振興計画」(H30.6)

### 農林海洋科学専攻の目的

「安全・安心な食料をはじめとする人の暮らしを支えるさまざまな資源の安定的確保」、「資源の開発・獲得及び高次元有効利用にかかわる技術の開発」、「生産環境及び地域・地球環境の保全・修復による人間社会の持続的発展」を農林海洋科学の果たすべき使命と認識し、高度な知識と技術、科学的思考力と課題解決能力、社会倫理及び深い教養を併せ持ち、地域社会や国際社会の健全な発展に貢献できる人材を養成することを目的とする。

## 2. コースごとの育成する人材像

農林資源環境科学コース	農芸化学コース	海洋資源科学コース
<p><b>農学関連分野に関わる地域社会及び国際社会の健全な振興に貢献できる人材</b></p> <p>農業、林業、並びにそれらを取り巻く環境、さらには、人と自然環境との共生に関わる領域など、農学関連分野に関わる地域社会及び国際社会の健全な進捗に貢献できる人材を育成する。</p>	<p><b>化学的視点から生物生産を探索し、研究結果を地域社会への貢献に結び付けられる人材</b></p> <p>化学的視点から生物生産を幅広く探求でき、その成果を地域社会への貢献に結び付けられる技術者・研究者を育成する。</p>	<p><b>海洋資源管理に長けた実践力のある高度海洋専門人材</b></p> <p>海洋資源の有効活用による持続的社会的創造を志し、海洋生物生産、海底資源環境、または海洋生命科学に関する領域のスペシャリストとして海洋資源管理に長けた実践力のある高度専門人材を育成する。</p>
<p>◆身に付ける能力等</p> <p>農学、森林科学、自然環境学、生産環境管理学等に関する先端的な専門的知識と実践的技術、広い視点で事象を的確に捉え科学的かつ自律的に思考できる能力。各分野における深い専門知識と心理を探索し問題を解決する能力。</p>	<p>◆身に付ける能力等</p> <p>動物・植物・微生物の生命現象、生物が生産する物質、安全な食料生産と健康増進、環境保全と修復、生物生態系等に係る事象を多面的に捉えながらさらに深く真理を探究する能力。</p>	<p>◆身に付ける能力等</p> <p>海洋資源管理に関わる広範で深い知識や解析手法、海洋生物生産・海底資源環境・海洋生命科学に関する先端的な専門的知識と技術。海洋資源の有効活用による持続的社会的創造を志し、俯瞰的に問題を分析し実際に行動し解決できる能力。</p>
<b>修士(農学)</b>		<b>修士(海洋科学)</b>
<p>◆想定される進路</p> <p>試験研究機関、農業関係団体、農業法人、農林業生産者、教員(理科・農業)、農林業生産者、企業(食品製造流通、種苗、農薬、農林業機械、農林業資材、農業土木、環境関連、建設関連)、青年海外協力隊、国家公務員・地方公務員、大学院博士課程進学 など</p>	<p>◆想定される進路</p> <p>試験研究機関、農業関係団体、農業法人、教員(理科、農業)、企業(医薬品、化学、バイオ、食品、素材、環境、種苗、農薬、肥料メーカーなど)、国家公務員・地方公務員、大学院博士課程進学 など</p>	<p>◆想定される進路</p> <p>試験研究機関、教員(水産、理学)、水族館職員、企業(製造業、サービス業、環境アセスメント業、養殖業、化学系、医薬系)、青年海外協力隊、資源系商社、資源系コンサルタント、地質・建設系コンサルタント、海でのレジャー・観光業、エコツーリズム、国家公務員・地方公務員、大学院博士課程進学 など</p>

# 農林資源環境科学コース(仮称)

## 設置の趣旨・必要性

21世紀の人間社会の食と暮らしと環境を支えるために、農林業とそれをとりまく産業的環境ならびに自然環境にかかわる幅広い知識の獲得と新規技術の開発、ならびにこれらの素養と俯瞰的視点を身につけた高度専門人材が必須であり、農林資源環境科学コースの総合的研究力・教育力をもって、地域～世界からの要請に応えることが求められている。

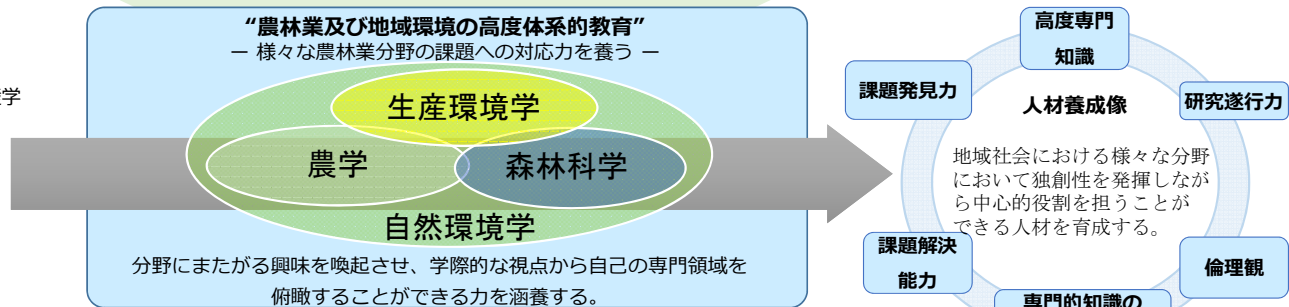
21世紀の食と暮らしと環境の総合的探求 ➡ 「農」の視点を備えて社会に貢献する高度専門人材の育成

## 先端農学・林学・環境学へと深化

【アドミッションポリシー】	【カリキュラムポリシー】	【ディプロマポリシー】
学士課程で学んだ基礎知識と農林業、自然環境に関連する専門知識、地域的、国際的な社会・技術問題の解決への意欲を持ち、研究成果を論理的にまとめ異なる意見にも配慮した解決策の提案ができる。	農林学及び環境学に関する専門学力、研究計画を立案する能力、研究を正確かつ的確に表現する文章力とプレゼンテーション能力、また、研究従事者及び高度専門職業人として必要な倫理観を養成するためのカリキュラムを編成する。	解決すべき課題を自ら設定し、獲得した高度な専門知識を応用して解決法を探ることができる。農林学関連分野における高度な専門知識を身につけ、自らの社会的責任を理解することができる。

### 求める資質・能力

- (1) 農林資源環境科学に関する幅広い基礎学力、ならびに専門領域の知識と技術
- (2) 科学的かつ論理的思考能力
- (3) 広い視野と柔軟な思考能力
- (4) グローバルコミュニケーション能力
- (5) 社会や地域の問題解決能力



- ・農林業に関する先端的な知見を利活用して地域環境の保全と地域産業の発展に貢献する。
- ・国内外の地域における農林環境教育、環境評価、環境保全活動を担う。
- ・農林産物、農地保全、水環境、バイオマス利用に関わる産業に貢献する。
- ・農山村地域の生産環境管理および経済活性化に貢献する。

社会に還元

農林学関連分野に関わる地域社会及び国際社会の健全な進捗に貢献できる人材

### 想定される就職先

試験研究機関, 農業関係団体, 農業法人, 農林業生産者, 教員(理科・農業), 農林業生産者, 企業(食品製造流通, 種苗, 農薬, 農林業機械, 農林業資材, 農業土木, 環境関連, 建設関連), 青年海外協力隊, 国家公務員・地方公務員, 大学院博士課程進学 など

## 設置の趣旨・必要性

化学的視点から生物生産を幅広く探求し、研究する上での高度な企画力・探求力・分析力を身につけて、高度な研究成果を地域社会に還元し、社会に貢献できる人材を養成することによって、スーパー・リージョナル・ユニバーシティの核となり、世界のニーズに応える分野横断的な研究分野の模索と確立を目指す。

生物生産と環境保全の化学的視点からの探求 → 先端化学の知識と技術を持つ高度農芸化学人の育成

## 化学的視点から生命を考える先端的農芸化学へと深化

【アドミッションポリシー】	【カリキュラムポリシー】	【ディプロマポリシー】
化学的視点から生物生産を幅広く探求し、研究する上での高度な企画力・探求力・分析力の素養を有し、高度な研究成果を地域社会に還元し、社会に貢献できる研究成果の発展と新たな技術の確立できる意欲を持つ。	化学的視点から生物生産を幅広く探求し、研究する上での高度な企画力・探求力・分析力を身につけるための講義・実習・演習を土台にして、地域社会のニーズや世界レベルの社会要請に応えることのできる高度な研究成果を達成し、スーパー・リージョナル・ユニバーシティの核となる研究者・技術者・教育者を養成するためのカリキュラムを編成する。	化学的視点から生物生産を幅広く探求し、研究する上での高度な企画力・探求力・分析力を身につけて、高度な研究成果を地域社会に還元し、社会に貢献できる研究成果や技術開発を行い、地域社会の格となると共に、世界のニーズに応える人材となることができる。

### 求める資質・能力

- (1) 農芸化学分野の専門力と技術力
- (2) 生態系を化学的に解析する能力と技術力
- (3) 研究成果を公表できる語学力と表現力
- (4) 主体的かつ積極的に活動する意欲と志
- (5) 社会に貢献する態度と向上心

“化学的視点から世界の常識をくつがえす”  
— 生命・環境・食・健康をテーマに先駆的人材の育成—

<動植物健康化学>

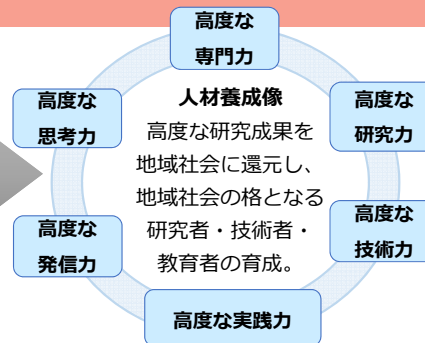
<健全な生物生産で食と健康に貢献する！>

<生物環境化学>

<土壌汚染や砂漠化に立ち向かう！>

<微生物化学>

<可能性の宝庫である微生物資源を活用する！>



化学的視点から生物生産を探求し、研究結果を地域社会への貢献に結び付けられる人材

社会に還元

- ① 生命現象を遺伝子・タンパク質・生理活性物質など分子レベルで解明し、地域社会に役立つ技術を開発する！
- ② 食料生産と生態系に関心を持ち、土壌・動物・植物・微生物の役割を理解して、時代や生活の変化に即した環境の改善を果たす！
- ③ 健康増進作用など食品が有する多彩な機能を解明し、その多様な機能を食生活で活用する高付加価値食品の生産！
- ④ 多彩な生物に由来する物質、食と健康の関わり、多様な生態系の実態を化学的に理解して、地域社会に役立つ研究成果を生み出す！

想定される就職先  
試験研究機関、農業関係団体、農業法人、  
教員（理科）、企業（医薬品、化学、  
バイオ、食品、素材、環境、種苗、  
農薬、肥料メーカー）、国家公務員、  
地方公務員、大学院博士課程進学など

# 海洋資源科学コース(仮称)

## 設置の趣旨・必要性

海洋は、水産資源のみならず有用微生物資源や深層水、海底鉱物・エネルギー資源など、未知の可能性の宝庫であり、これらを獲得し有効に活用することは、地域や社会からの要請である。そのため、学部教育から培われてきた多様な海洋資源に関する知識の深化を目指す高度な教育とグローバルな視野を持つ人材育成が必要である。

海洋資源と環境に関わる知識と技術の探求 ➡ 海洋科学の知識・技術を持つ高度専門職業人の育成

## 海洋資源科学へと深化

【アドミッションポリシー】	【カリキュラムポリシー】	【ディプロマポリシー】
多様な海洋資源の「探査・理解・利活用」、それらを取り巻く「環境と保全」に関わる複雑で様々な課題を自然科学と社会科学の双方の高度知識と技術を駆使して解決し、地域や国際社会の持続的発展に貢献できる研究能力・技術開発能力、管理保全能力の修得するための素養を有する。	海洋資源科学研究に従事するための豊富な専門学力や研究立案・遂行能力、文章力とプレゼンテーション能力、さらには海洋資源分野の最先端の研究動向と自身の研究を位置づける能力、海洋管理や環境保全に関するグローバルな視野を養成するためのカリキュラムを編成する。	海洋資源分野に関する高度な専門知識を備え、研究遂行能力ならびに実践力を有している。また、海洋資源の管理・保全に豊富な知識を持ち、グローバルコミュニケーション能力を有し、地域や国際社会に役立つ課題解決をおこなうことができる。

### 求める資質・能力

- (1) 海洋資源科学に関する幅広い基礎学力
- (2) 科学的かつ論理的思考能力
- (3) 広い視野と柔軟な思考能力
- (4) グローバルコミュニケーション能力
- (5) 社会や地域の問題解決能力

“＜海洋資源に関する総合的高度体系教育＞”  
— ＜多様な海洋資源分野に関する実践的教育＞ —

### ＜海洋資源学＞

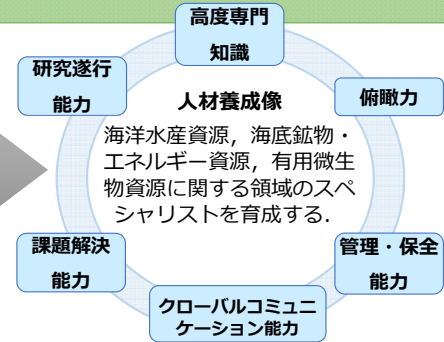
＜水産資源、海底鉱物エネルギー資源、  
海洋天然物資源に関する講義群＞

### ＜資源探査・利活用＞

＜海洋資源探査・開発、産業製品化  
に関する講義群＞

### ＜環境と保全＞

＜海洋管理、環境保全、海洋国際法、  
合意形成に関する講義群＞



海洋資源の知識・開発・保全に長けた  
実践力のある高度海洋専門人材

- ・ 海洋資源に関する深化した専門知識を活用し、将来の資源やエネルギー問題への貢献および地域産業の発展に貢献する。
- ・ 海洋資源開発にともなう海洋環境の保全や海洋管理に関する課題を解決する。
- ・ 地域でおこなう海洋教育、環境教育に加え、他国との連携を視野に入れ、海洋環境の保全に貢献する。

社会に還元

### 想定される就職先

公務員（国家・地方）、試験研究機関、教員（水産、理科）、水族館職員、企業（製造業、サービス業、環境アセスメント業、養殖業、化学系、医薬系）、青年海外協力隊、資源系商社、資源系コンサルタント、地質・建設系コンサルタント、海でのレジャー・観光業、エコツーリズム、大学院博士課程進学 など

# 農林海洋科学専攻（仮称）設置に関する アンケートについて

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は高知大学のキャリア教育、就職活動にご協力とご理解を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、本学では現在、新しい時代に対応しうる人材育成を目的に、既設の大学院修士課程農学専攻を改組し、大学院修士課程農林海洋科学専攻を新たに設置することを検討しております。

そこで、高知大学を卒業・修了した学生の採用や、求人票をご提出いただいている実績がある、企業・団体様の採用の責任者・担当者の皆さまから率直な意見をお聞きし、高知大学大学院修士課程における新専攻設置の参考にさせていただきたいと思い、アンケートを実施することとなりました。

つきましては、ご多用の折、大変お手数ではございますが、本調査の主旨をご理解の上、アンケート調査にご協力いただきたくお願い申し上げます。

敬具

平成 30 年 11 月  
高知大学

## -----アンケートの実施・ご回答にあたって-----

- 新専攻設置の内容については構想中のものであるため、変更の可能性があります。また、新専攻の名称等については、すべて「仮称」です。
- ご回答いただきました内容につきましては、新専攻設置の検討資料として統計データのみを使用し、個人情報を含むデータを他に転用することは一切ございません。
- ご回答は、本アンケート用紙に直接ご記入ください。
- 誠に勝手なお願いではございますが、ご回答いただきましたアンケートは、同封の返信用封筒（切手不要）にて、**平成 30 年 11 月 30 日（金）**までにご投函くださいますようお願いいたします。

アンケートに関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。

<<本件担当>>

高知大学 法人企画課法人企画係  
住 所 : 高知県高知市曙町 2-5-1  
電話番号 : 088-844-8743



**F1. 貴社・貴組織の主たる業種をお選びください。(ひとつに○)**

- |                  |                |             |
|------------------|----------------|-------------|
| 1. 建設業           | 2. 機械・製造業      | 3. その他製造業   |
| 4. 電気・ガス・水道・熱供給業 | 5. ソフトウェア・情報処理 | 6. その他情報通信業 |
| 7. 運輸業           | 8. 卸売業         | 9. 小売業      |
| 10. 金融・保険業、不動産業  | 11. 飲食業・宿泊業    | 12. サービス業   |
| 13. 公共機関         | 14. 経済団体       | 15. その他 ( ) |

**F2. 貴社・貴組織の正社員(職員)数をお選びください。(ひとつに○)**

- |                |              |                |
|----------------|--------------|----------------|
| 1. 300 人未満     | 2. 300～999 人 | 3. 1000～4999 人 |
| 4. 5000～9999 人 | 5. 10000 人以上 |                |

**F3. 貴社・貴組織の本拠地所在地(都道府県・市区町村名)をご記入ください。**

都道府県名→

市町村名→

**Q1. 本学の卒業生・修了生を採用したことがありますか。**

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1. 採用したことがある | 2. 採用したことはない |
|--------------|--------------|

**Q2. Q1 で 1.を回答された方にお聞きます。**

**採用したことがある場合の学歴をご回答ください。**

1. 学部卒業生
2. 大学院修了生
3. 学部卒業生・大学院修了生の両方

**Q3. 貴社・貴組織において、今後大学院修了生の必要性は高まると考えますか。**

- |             |            |
|-------------|------------|
| 1. 大きく高まる   | 2. ある程度高まる |
| 3. 現在と変わらない | 4. 減る      |
| 5. わからない    |            |

**Q4. 現在高知大学では、大学院総合人間自然科学研究科に農林水産資源のみならず海洋資源をも含んだ地球資源の開発と産業的利活用を扱う高度専門職業人育成を目指した農林海洋科学専攻の設置を計画しています。(別紙参照)**

**この農林海洋科学専攻についての評価を教えてください。**

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1. とても評価できる  | 2. ある程度評価できる |
| 3. あまり評価できない | 4. 評価できない    |

**Q5. Q4で1.2.を回答された方にお聞きします。**

評価できるとした理由を教えてください。(複数回答可)

1. 農学関連分野に関わる地域社会及び国際社会の健全な振興に貢献できる人材が自社・当団体に必要であるため
2. 科学的視点から生物生産を幅広く探求し、成果を地域社会への貢献にむすびつけられる人材が自社・当団体に必要であるため
3. 海洋資源管理に長けた実践力のある高度専門人材が自社・当団体に必要であるため
4. その他( )

**Q6. 農林海洋科学専攻が設置された場合、当専攻の修了生を採用する可能性を教えてください。**

1. 採用したいと思う
2. 採用しないと思う

**Q7. Q6で1.を回答された方にお聞きします。**

農林海洋科学専攻のどのコースの修了生を採用したいと考えますか。(複数回答可)

1. 農林資源環境科学コース
2. 農芸化学コース
3. 海洋資源科学コース

**Q8. Q6で1.を回答された方にお聞きします。**

農林海洋科学専攻の修了生を採用する場合、何人程度の採用が見込まれますか。

採用をしたいと考えるコース別に人数をご記入ください。

コース名	農林資源環境科学 コース	農芸化学 コース	海洋資源科学 コース
採用したい 人数 (人)			

**Q9. 農林海洋科学専攻に関するご意見等ございましたら、ご自由にお書き下さい。**

採用に係る質問はこれで終了です。

次頁は、社会人の学び直しについておたずねいたします。

**Q10. 貴社・貴組織の社員等を農林海洋科学専攻へ社会人入学させたいと考えますか。**

1. 入学させたいと思う

2. 入学させたいと思わない

**Q11. Q10で1.を回答された方にお聞きします。**

**入学させたい場合、どの頻度で入学させたいと考えますか。**

**○/●（●年あたり○人を入学させたい）の形式でコース別にご記入ください。**

コース名	農林資源環境科学 コース	農芸化学 コース	海洋資源科学 コース
入学させたい 人数 (○人/●年)	/	/	/

**質問はこれですべて終了です。**

**ご協力ありがとうございました。**